

令和 8 年度第 1 回坂出市地域公共交通活性化協議会会議録	
日 時	令和 8 年 6 月 2 2 日(月) 1 3 時 3 0 分～1 4 時 2 0 分
場 所	坂出市役所本庁舎 3 階中会議室 2
出 席 者	(委 員) 土井会長、櫻又委員、成澤委員(岡委員代理)、大西委員、吉田委員(川滝委員代理)、入江委員、北山委員、上野委員、横田委員(池内委員代理)、河田委員、大熊委員、山家委員、溝渕委員、竹内委員、濱崎委員 以上、1 5 名 (事務局) 政策課 吉川課長、松浦課長補佐、新鞍
欠 席 者	宮崎副会長、松浦委員、松下委員、浦田委員
オブザーバー	山本オブザーバー (四国運輸局)
傍 聴 者	なし
議事次第	1. 開会 2. 議題 (1) 令和 7 年度決算報告および令和 8 年度予算 (案) について (2) 地域公共交通の現状課題について (3) 今後の取組予定・令和 8 年 1 0 月からの運行計画等について (4) バリアフリー車両の購入について (5) その他 3. 閉会
会 議 概 要	
議題(1) 令和 7 年度決算報告および令和 8 年度予算 (案) について	
発 言 者	発言要旨
事務局	令和 7 年度決算報告≪資料 1 に基づき説明≫ ・利便増進計画推進事業については、国補助金の一部が令和 8 年度収入となったため、収支を繰越処理している。

	・地域公共交通確保費補助金（地域内フィーダー系統）については、国補助金の受領が３月末となり、令和７年度内での支出が完了しなかったため、令和７年度の支出では決算せず、令和８年度で決算するようになる。
監事	《監査報告》
事務局	・令和８年度予算(案)《資料１に基づき説明》 ・地域内フィーダー系統補助金については、令和８年９月末までの実績を踏まえ、第２回協議会で補正予算を審議予定。
議長	・令和７年度決算報告および令和８年度予算（案）について、何か質問はあるか？
各委員	《質疑なし》
議長	・令和７年度決算報告および令和８年度予算（案）について、承認いただくことでご異議ないか？
各委員	《異議なしにより承認》

議題（２）地域公共交通の現状課題について

発 言 者	発言要旨
事務局	《資料２に基づき説明》 ・坂出駅南口へバスロータリーが移転・供用開始したことに伴い、路線バス・デマンドタクシーの運行経路が変更された。 ・バス利用者数については、島田岡田線など利用者が増加した路線もあるものの、利用者数については微減で推移している。 ・バス路線の内、地域間幹線として国の補助を受けていた島田岡田線・瀬戸大橋線について、令和１０年度事業より輸送量に関する補助要件がコロナ禍以前の水準へ引き上げられることに伴い、現状の輸送量実績では補助要件を満たさない状況となり、令和１０年度事業策定までに対応が必要。 ・デマンドタクシーについて、令和８年２月に東北・東南エリアにて運行を行っていた事業者の廃業により交通空白が生じたものの、令和８年３月より、道路運送法第２１条第２号に規定される代替交通が運行されている。乗用タクシーを含め、現状営業している事業者へ需要が集中しており、受付体制がひっ迫している。 ・市内にて路線バスを運行する琴参バス株式会社と「運転士不足解消に向けた相互協力に関する協定」を締結し、今後取組を進めていく予定である。

		・TicketQR 利用率について、デマンドタクシーにて利用が増えており、プリペイドカードでの利用が進んだことが要因と思われる。
	議長	・その他、交通事業者より補足説明はあるか？
	委員 (鉄道事業者)	・収入及び定期券利用者については、ほぼ前年並み。利用者数全体としては、瀬戸大橋線を含め好調に推移。
	議長	・昨年は瀬戸内国際芸術祭による利用者増があったが、本年においても利用者を維持できている要因は？
	委員 (鉄道事業者)	・インバウンド利用や県立アリーナ訪問客の利用により、維持できていると考えている。引き続き動向を注視していきたい。
	委員 (バス事業者)	・地域間幹線として国の補助を受けていた、島田岡田線及び瀬戸大橋線に関しては、関係各所と共に、再編等の検討を進めている。 ・島田岡田線は、昨年１０月からの利用者が、前年同期間と比較し１，１００名程度の増加となっているが、これは綾川線経由での定期券利用者の学生が１０名増となった影響と考えている。 定期券利用者は、平日毎日往復の利用があるため、延べ利用者数に大きく影響する。 ・瀬戸大橋線は、瀬戸大橋を利用しなければ需要を満たせないという性質上、路線の経路変更が出来ない。 ・利用者についても、与島地区の人口減少に伴い輸送量が減少している。 ・座席スペースの一部を活用して行っていた新聞配達輸送について、四国新聞以外の輸送が６月からなくなっており、収入減となっている。 その他補助事業の活用を検討するとともに、島民外の観光客の利用拡大に向けた利用促進策も検討していく。
	議長	・島田岡田線について、高校への定期券利用の要請は行っているか？
	委員 (バス事業者)	・県の協力のもと、利用促進策として、沿線の県立高校に対して高校周辺のバスマップを作製・配布した。
	議長	・瀬戸大橋線については、新聞を小荷物輸送という形で運送していることが、貨客混載の取組であり、興味深い。他の貨物輸送需要も出てくれば、路線維持にとって良いことだと考える。

委員 (バス事業者)	・座席１席分を利用して新聞を輸送し、１人分の運賃を収入していた。今後も貨物輸送需要があれば、実施を検討していきたい。
委員 (デマンド事業者)	・東北・東南エリアを運行していた事業者が２月初旬に廃業となり、交通空白となっていたものの、３月から自社で代替交通の運行を行っている。 ・ただし急に引き受けることとなったため、自社で実施可能な運行水準へ引き下げて運行開始したものの、特に受付・料金収受業務において、現状の水準においても負担が大きい。 ・利用者数は前年と比較し７割程度となっており、運行水準を代替交通開始前の水準へ戻していきたいとは考えている。 ・事業者負担の軽減に向けて、受付アプリ等の導入支援を検討してもらいたい。
議長	・以前の運行事業者からは、受付・配車事務で苦労があったと聞いていた。 ・協議会としても、また行政としても、利用を検討しているシステムを使いやすいものに改良していければよいと考えている。

議題(3) 今後の取組予定・令和８年１０月からの運行計画等について

発 言 者	発言要旨
事務局	《資料３－１、３－２、３－３、３－４に基づき説明》 (資料３－１) ・前回１月協議会で取り組みの成果が確認された一方で、まちづくりとの連携、デマンドタクシー運行における配車事務の負担軽減の必要性が確認された。 ・また資料２で報告した、地域間幹線バスやデマンドタクシー運行の課題も生じている。 ・各種補助金を活用しながら、引き続きモビリティマネジメントに取り組む。 ・中高生サマーパス事業に加え、TicketQR利用者向け特典事業を新たに実施予定。 ・本年度においても国補助金の採択を受け、レベル４自動運転の社会実装を目標とし、中心市街地循環ルートにてレベル２による実証運行に取り組む。 ・東北・東南エリアにおいて、令和８年１０月から県補助事業の活用・市も上乗せ補助にて支援を行い、AI デマンドシステムを導入予定。 ・配車業務や受付業務の効率化を図り、サービス水準の回復を目指す。 (資料３－２) ・デマンドタクシー（東北エリア・東南エリア）以外のバス路線・デマンドタクシー南エリアの運行計画については、運行実態に合わせて一部バス停の発車時刻調整のみを行う。 ・デマンドタクシー（東北エリア・東南エリア）については、令和８年１０月から道路運送法第４条による運行を再開する。

) 議長 委員 (四国運輸支局) 委員 (デマンド事業者) 事務局 議長 委員 (県交通政策課)	・運行概要について、便数・定員等は令和6年10月からの水準にて実施。ただし予約方法については、前日の16時締切としつつ、アプリ経由での予約については、当日出発予定時間の1時間前まで可能とする。 (資料3-3) ・今回の修正は自動運転に関する具体的な取組についての記載を追加。 ・令和8年度は社会実装予定ルートにおいて、運行データの蓄積や走行環境整備を進める。 ・令和9年度での特定自動運行に必要な許認可取得、令和10年度にレベル4自動運転バスの運行開始を目標として取り組むことを計画へ明記する。 (資料3-4) ・地域内フィーダー系統確保維持事業の国庫補助金計画となるが、令和8年10月以降の新たなデマンドタクシー運行体制について追記、その他路線においては現在運行している令和8年度計画と同様の運行内容で申請を行いたい。 ・協議事項(3)について、何か質問はあるか？ ・令和8年3月からのデマンドタクシー代替交通運行について、利用者からどのような意見が寄せられているか。 ・AIデマンドシステム導入による事業者負担軽減について、どのように考えているか。 ・利用者からは予約締切時間の前倒しや定員縮小に対する不満が多い。 ・「以前のサービス水準に戻してほしい」との要望が寄せられている。 ・現状は受付業務や配車業務の負担が大きく、即時回復は困難。 ・AIデマンド導入による改善に期待している。 ・市にも同様の要望が寄せられている。 ・現在は運行事業者にて、配車担当者が手作業で複雑な調整を行っている状況。 ・AIデマンド導入により受付業務、配車業務、運行ルート調整の効率化を図りたい。 ・全国で様々なAIデマンドシステムが導入されている。 ・坂出市に適したシステム選定が重要。 ・オンデマンド交通は今後さらに重要な移動手段になると考えられる。 ・県の公共交通アップデート補助金にて支援する考え。 ・令和8年度より補助金を拡充しており、デジタルを活用した地域に即した事業に活用いただきたい。
---	--

議長	・ AI デマンドシステムについて、関係者で協議を進めてほしい。 ・ 他にご質問・ご意見等はあるか？
各委員	《質疑なし》
議長	・ それではこの議題の各内容について、それぞれ承認いただくことでよいか？
各委員	《異議なしにより承認》

協議事項(4) バリアフリー車両の購入について

発 言 者	発言要旨
事務局	《資料4に基づき説明》 ・ 四国タクシーが UD タクシー（ジャパンタクシー）を導入予定。 ・ 国補助制度を活用し移動環境の改善を図る。
委員 (四国タクシー)	・ 車いすごと乗車可能で、車内も広いため、乗客にとって利用しやすい車両。 ・ 車両価格が高額であり、毎年1台ずつ計画的に導入する方針。
議長	・ 利用者の利便性向上ということで承認いただいてよいか？
各委員	《異議なしにより承認》

協議事項(5) その他

発 言 者	発言要旨
議長	・ その他として、委員の皆さんから議題やご意見はあるか？
各委員	《質疑なし》
議長	・ 交通事業者の皆様から、新年度における運転士確保の状況などについてお聞かせいただきたい。
委員 (バス事業者)	・ 乗務員の人数はほぼ変わっておらず、コロナ前の水準からは程遠い状況。 ・ 直近では1名が免許教習中であるが、1名退職が出ており増減はない。 ・ 退職消防職員の活用や乗車体験会などを実施し、人材確保に努めている。

委員 (デマンド事業者) 議長	・貸切バス乗務員の確保は厳しい状況である。 ・タクシー乗務員については、特に２０～４０代を中心に、年間２０～３０名程度を採用している。 一方で高齢乗務員の退職も多く、実質的な増加は１０～１５名程度。 ・タクシー事業者の廃業が続く中讃南部地域の応援を行うなど、地域全体の需要に対応しているため、余裕は少ない。 ・配車まで２０～３０分程度待つていただくケースも発生している。 ・バス、タクシーともに人材確保が大きな課題となっている。 ・地域公共交通を取り巻く環境の厳しさが改めて共有された。 ・貴重な情報提供に感謝する。 ・これにて議事を終了させていただきたい。 《議事終了》
---	--